

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

大学生に必要な テキストの読み方を指南

『クリティカル・リーディング入門』

——人文系のための読書レッスン——

慶應義塾大学教養研究センター監修
大出 敦法 学部長・教授・教養研究センター副所長 著
慶應義塾大学出版会／1944円
(2015年10月)



大学レベルのレポートや論文作成では、資料となるテキストを「どう読むか」ということが重要になる。本書は、楽しみとしての読書や情報を得る読書とは異なる、クリティカル・リーディングの方法を学ぶ入門書。感想文や情報の羅列に陥りがちなレポートや論文から脱却し、普遍性を持ち、常識や安易な納得を乗り越え「問い」を含むものにするための、テキストの読み方を知ることができる。大岡昇平、フローベール、村上春樹、中原中也らの文章を題材に、「どう読むか」を、著者が実際に行った授業における議論を通じて示しており、本書自体が知的好奇心をかきたてる興味深い一冊となっている。

教職員執筆の最新刊

●竹中淑子（名誉教授）著

『随筆集 数学者の家』西田書店／1728円（2015年12月）

●寛 康明（環境情報学部准教授）、南澤孝太（メディアデザイン研究科准教授）、仲谷正史（同特任准教授）ほか著

『触楽入門』朝日出版社／1706円（2016年1月）

●エマニエル・トッド著、堀 茂樹（総合政策学部教授）訳

『シャルリとは誰か？——人種差別と没落する西欧』文春新書／994円（2016年1月）

●金子 勝（経済学部教授）ほか著

『日本病——長期衰退のダイナミクス』岩波新書／864円（2016年1月）

●ヒサ クニヒコ（塾員）著

『人類の歴史を作った船の本』子どもの未来社／3024円（2016年1月）

●権丈善一（商学部教授）著

『ちよっと気になる社会保障』勁草書房／1944円（2016年1月）

慶應義塾の一冊

『雪あかり日記／せせらぎ日記』

谷口吉郎 著
中公文庫／1404円
(2015年12月)



著者は、戦前の幼稚舎校舎の設計に始まり、三田キャンパスなどの数多くの校舎や建物を手がけた、義塾と縁の深いモダニズムの建築家。日本大使館の改築のためにベルリンを訪れ、改築資料を求めて奔走し、ヨーロッパの歴史的建築に感嘆する、自身の若き日の海外体験をつづった日記である。ヨーロッパの南に行っても、北に行っても、欧州のただならぬ気配は一層濃くなり、切迫した国際関係の危機はますます深くなっていくばかり」とあとがきで記しているように、第2次世界大戦前夜の緊張した欧州の雰囲気伝える貴重な記録でもある。